

実習にも指導していただいたKKR札幌医療センターの院長先生はじめスタッフの先生方、日本医療マネジメント学会事務局の方々に心から感謝申し上げます。開催される労力は大変でしょうが、この有意義な本セミナーが今後も全国各地で開催されることを希望いたします。

2009年度第1回医療安全分科会

市立敦賀病院麻酔科 杉浦良啓



グループワーク風景

2009年10月31日(土)、11月1日(日)の両日、東京原宿の表参道にある日本看護協会本分科会が開催されました。

90名が10グループに分かれ、「信頼のコミュニケーション」のケーススタ

ディーを討論しながら解決の糸口をチームで見出すという、新しい趣向を凝らした研修会でした。各講義は、「安全安心病院」で起きた医療事故を解決するために必要な基礎知識を提供するという形で行われました。

初日は、午前11時10分からスタートし、午後6時まで行われました。まず、心理学の視点からコミュニケーションが妨げられる理由の説明があり、さらにコミュニケーションを学際的に整理し、「関係モデル」の視点が提案されました。続いて、信頼構築、次に信頼確保をどのように行なうかを家庭医、医師と弁護士の資格者、有害事象を「隠さない、逃げない、ごまかさない」対応を行なっている事務系の人、交渉紛争解決学を専門とする大学教員と、多方面の知識が提供されました。

2日目は午前9時から、信頼回復について病院管理部長と前日の教員から具体的で実践的な説明がなされ、その後、記憶が薄れないうちに討論に入り、最後にグループ発表が行なわれました。4時間30分にわたる熱心で積極的な討論と発表、講師からのコメントを聴きながら、患者と医療者間のコミュニケーションが医療安全を次の高いステップに移るには避けられない課題であることを痛感しました。

多くのことを短い時間内に学ぶことができた研修会でした。「信頼度曲線」、「『キウ』に気付いて『ケア(KEA)』する『そうなんです』」、「か・き・か・え」、「i Sbar-r」、「大阪府警の暴力団対応10則」等には特に興味を持ちました。

今回の研修会は座学形式で知識を学ぶのではなく、ケーススタディーを通して知識が頭の中に自然に入るように工夫された研修会でした。

最後に企画と運営を準備して頂いた、坂本すが、長谷川敏彦両先生をはじめとした講師陣に感謝の気持ちをこの場をお借りして申し上げさせていただきます。来年はさらにパワーアップした研修をお願いいたします!?

支部学術集会開催報告

第16回静岡県支部学術集会

当番世話人：富士宮市立病院診療部外科科長 鈴木憲次



会場風景

2009年8月1日(土)、第16回日本医療マネジメント学会静岡県支部学術集会が富士宮市役所で開催されました。

今回、初めて1日の学会となり、参加者は241名で

した。午前中、一般口演10題の発表の後、ランチョンセミナーでNECソフト静岡支社の渡辺揚一氏に「クリティカルパスが電子化されるまで～SEから見た富士宮市立病院様電子クリティカルパスの軌跡～」を講義していただきました。

午後は、クリティカルパス展示及び「脳卒中地域連携クリティカルパス」「ESD」「PCI」の3テーマのクリティカルパス討論会を行いました。座長の進行で、各施設から提示されたクリティカルパスについてパネラーの医師、看護師が意見交換をして、県内の標準化が図れるか討論されました。脳卒中地域連携クリティカルパスは、県内東部は個別連携、中部・西部は複数連携という地域性を活かした連携の現状が見えました。連携用紙については、今後も検討が必要であると共通の課題が確認できました。

特別講演は、済生会栗橋病院副院長の本田宏先生に「日本の医師不足・医療崩壊の深層と再生への処方箋」というテーマでご講演をいただきました。先生は、医療崩壊の根本原因は、政府の医療制度改革という名の医療費削減にあり、医療再生の為には、医療者と国民が日本の医療の隠された深層を正しく認識し、それぞれの社会的責任を果たすことが必要最低条件であると述べられました。

今回の支部学術集会開催にあたり、ご協力いただきました皆様に心からお礼申し上げます。

(文責：富士宮市立病院看護師長 石川弥生)

第7回高知県支部学術集会

当番世話人：特定医療法人仁生会細木病院外科部長 上地一平



会場風景

第7回日本医療マネジメント学会高知県支部学術集会は、2009年8月23日(日)9:55～16:45、高知市文化プラザかるぽーとにて、特定医療法人仁生会細木病院の上地一平外科部長の

世話人のもとで開催され、341名の方々が参加されました。